

詩をつくろう

②詩のくふうを楽しもう
ことばあそび・ことばさがし

はじめに 「詩」って何? 2

詩を読んでみよう 6

焚火 北原 白秋 6

詩のくふうを楽しもう 10

秋の夜の会話 草野 心平 10
 もしも春が来なかったら 与田 準一 12
 うみと わたし 岸田 衿子 14
 はだか 若山 牧水 18
 けむり まど・みちお 19
 道程 高村 光太郎 22
 あした 石津 ちひろ 24

詩のことばあそび 26

いるか 谷川 俊太郎 26
 き 谷川 俊太郎 27

〈かたつむり〉 和田 誠 28
 はんたいことば 原田 直友 29

いろいろな詩の表現を見てみよう 30

なみ 内田 麟太郎 30
 かいだん 関根 栄一 31
 天気 草野 心平 32
 月 こやま 峰子 33
 蛇 ジュール・ルナール 33
 岸田 国士 訳

詩のおくりものをしよう 34

詩をえらぶ 34
 詩をカードに書く 35
 カードをわたす 36
 絵手紙をおくってみよう 37

作品名さくいん／作者名さくいん 38

詩しを読よんでみよう

焚火たきび

北原 白秋きたはら はくしゅう

一いち

落葉おちばた焚たけばおもしろ、
櫟くぬぎの葉ははふすふす。
萱かやの葉ははちよろちよろ、
松まつの枯葉かれははぱちぱち。

二

ひとりで焚たく落葉おちばを

四よん

くぬぎの燃もゆるにほひは
くぬぎの枯かれし香かぞする。
ただそれだけの事ことさへ、
うれしや、冬ふゆはさみしや。

五ご

落葉おちばた焚たき焚たき、
ただ遠々とほとほと見みてゐいつ。
赤あかい女松めまつのまばらに、

をりふし明あける日ひあたり。

六ろく

落葉おちばた焚たくかたへに
見みつけてふともうれしや、
竜胆りんどうが蓄つぼんでゐいる。
二つづつふくらんでゐいる。

七なな

萱かやがよう燃もえるわ、
あたたかいぞ、あたたかいぞ、
と、云いうては見みれど、やつぱりさみしい。
黙だまつてばかりゐいらずとも、何なにか云いへ、お前まえも。



詩しのくふうを楽たのしもう

詩しを読よみながら、その詩しに使つかわれている表現ひょうげんのくふうを学まなび
ましよう。

秋あきの夜よの会かい話わ

草野心平くさのしんぺい

さむいね。

ああさむいね。

虫むしがないてるね。

ああ虫むしがないてるね。

もうすぐ土つちの中なかだね。

土つちの中なかはいやだね。

痩やせたね。

君きみもずいぶん痩やせたね。

どこがこんなに切せつないんだらうね。

腹はらだらうかね。

腹はらとったら死しぬだらうね。

死しにたかあないね。

さむいね。

ああ虫むしがないてるね。



気きになる表現ひょうげんをさがしてみよう

6ページの「焚火たきび」も右ページの詩しも、文ぶんをみじかく切きつて行ぎょうをかえています。こういう効果こうかがあるか、考かんがえてみましょう。

また、ほかにも気きになる表現ひょうげんがないか、見みつけてみましょう。

だれの会かい話わか考かんがえてみよう

この詩しは会かい話わできています。では、会かい話わをしてい
るのはだれでしょうか？
「虫むしがないてる」「もうすぐ土つちの中なか」などのことを
ヒントに、想そうぞう像ざうしてみましよう。

どんなようすをイメージしますか？

この詩しを読よんで、どんな情じょう景けいが頭あたまに浮うかびます
か？ 想そうぞう像ざうしてことばにしてみましよう。



草野心平くさのしんぺいは、「かえ
るの詩人しじん」と呼ばれ
ているんだって

会かい話わが全部ぜんぶ「ね」で
終わおわって、リス
ム感かんが出ているわ

❖ 文ぶんをみじかく切きつて、行ぎょうを
かえる詩しの表現ひょうげんを「行分け」
といいます。リズムや余韻よゐんを
あたえたり、下に空白くわいはくをつ
くってイメージを広げやすく
したりします。